

## 平成 19 年（2007 年）の恵山の火山活動

札幌管区気象台  
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

## ○ 2007 年の活動概況

## ・ 火口や噴気の状況（図 1～4）

11 月 12～14 日に現地調査を実施しました。また、3 月 16 日、10 月 31 日、11 月 13 日に北海道開発局の協力により、7 月 2 日に函館海洋気象台が北海道の協力を得て上空からの観測を実施しました。いずれの観測でも、X 火口・Y 火口及び周辺の地熱地帯の状況に変化はありませんでした。

## ・ 地震活動（表 1、図 5）

火山性地震は 12 月下旬にややまとまって発生（25 日：29 回、28 日：42 回）したほかは、一日あたり概ね 10 回以下で、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

## ・ 地殻変動（図 6～7）

GPS 繰り返し観測では、地殻変動に特段の変化は認められませんでした。

## ○ 2007 年の噴火予報及び噴火警報の発表状況

発表日時	噴火警報または噴火予報	活動状況及び予報警報事項
12 月 1 日 10 時 20 分	噴火予報（平常）	火山活動は、これまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られない。

注) 平成 19 年 12 月 1 日より噴火警報及び噴火予報の発表を開始し、それに伴い従来の緊急火山情報、臨時火山情報及び火山観測情報は廃止しました。恵山では、2007 年に火山情報の発表はありませんでした。



図 1 恵山 山頂ドームの状況  
(2007 年 11 月 13 日 図 2 の①方向から撮影)

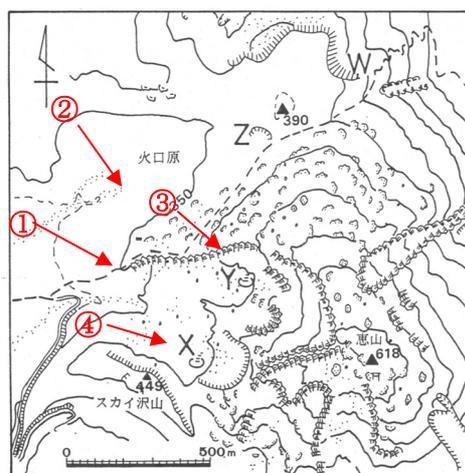


図 2 恵山 山頂周辺図

この資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.sapporo-jma.go.jp>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図については、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000 (地図画像)』を複製していません (承認番号 平 17 総複、第 650 号)。

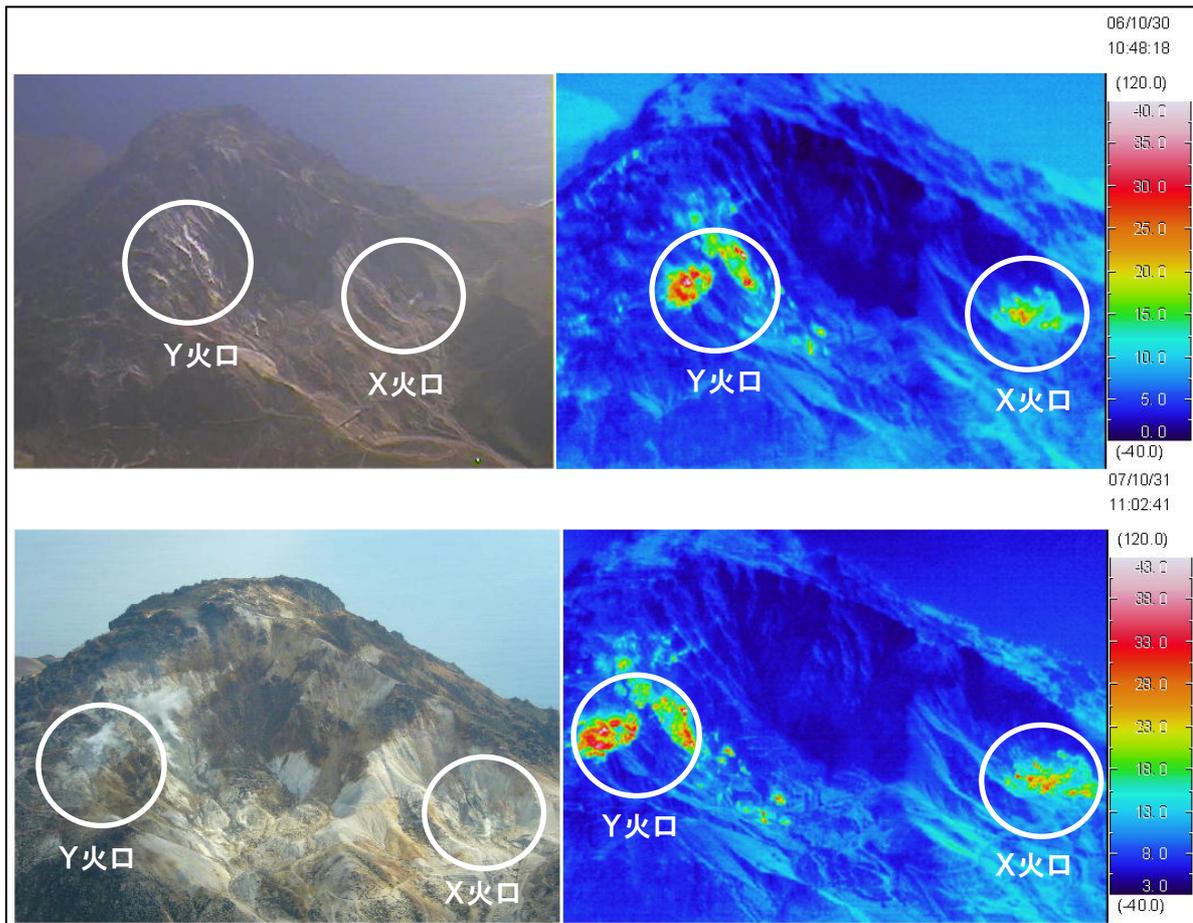


図3 恵山 赤外熱映像装置<sup>1)</sup>によるX火口及びY火口の地表面温度分布  
(上段：2006年10月30日 下段：2007年10月31日 図2の②方向から撮影)

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図4 恵山 X火口及びY火口の状況  
(2007年11月14日撮影 左：Y火口、図2の③から、右：X火口 図2の④から)

- ・ 溶岩ドーム西側に位置するX火口では火口底付近から 10m以下の噴気、Y火口では火口壁上部の数箇所から 30～50m程度、また火口底からは10m以下の噴気が認められました。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>で観測した地熱域の分布は、これまでと比較して特段の変化はありませんでした。

表 1 恵山 地震・微動の月回数（ドーム北）

2007 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
地震回数	17	20	19	17	11	28	17	68	78	17	10	107
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

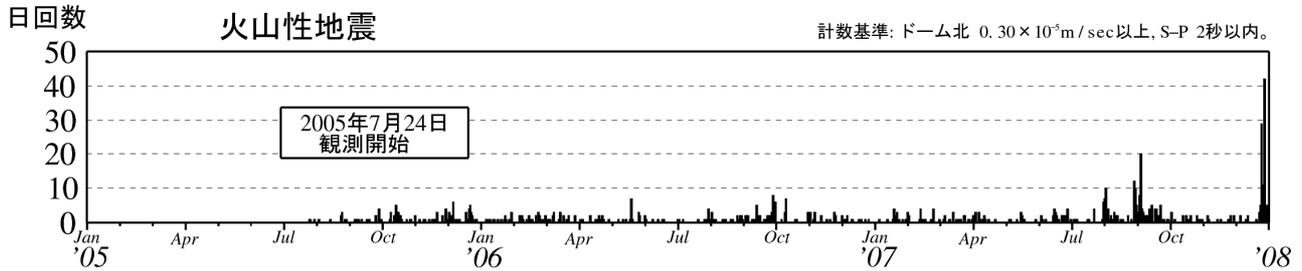


図 5 恵山 日別地震回数（2005 年 7 月 24 日～2007 年 12 月 31 日）

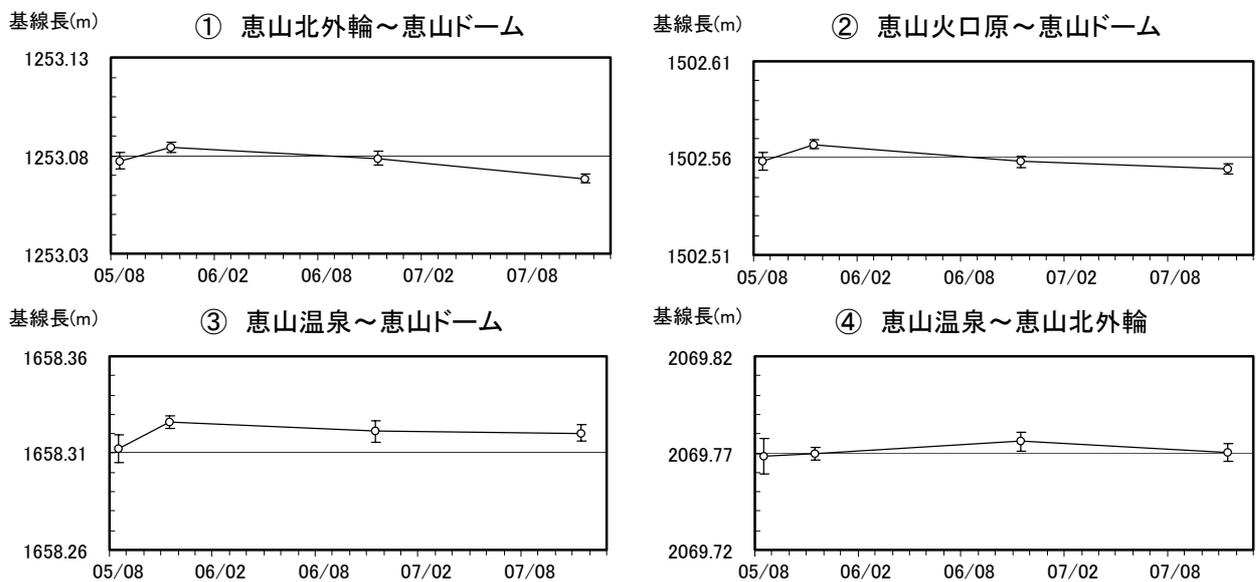


図 6 恵山 GPS 繰り返し観測による基線長変化（2005 年 8 月～2007 年 11 月）

図 6 の①～④は、図 7 の①～④に対応しています。

・ GPS 繰り返し観測では、火山活動によって考えられる変動は観測されませんでした。

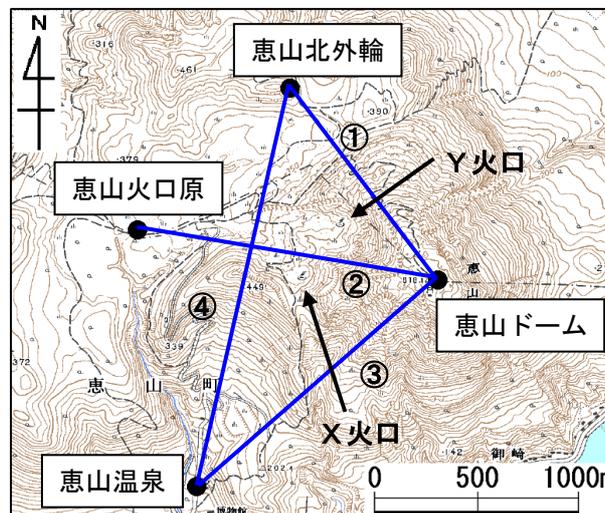
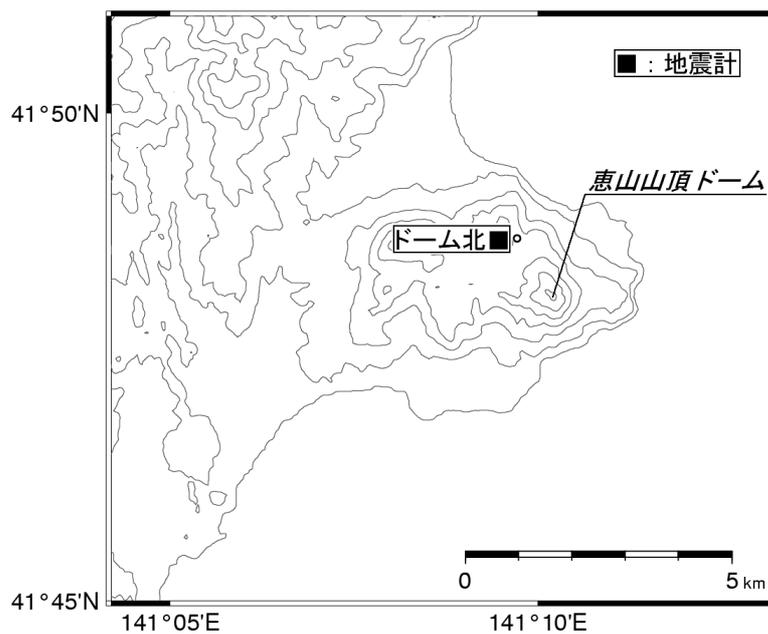


図 7 恵山 GPS 繰り返し観測点配置図

観測点情報



気象庁観測点一覧表 恵山（緯度・経度は世界測地系）

観測機器	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始 年月
		緯度(度分)	経度(度分)	標高(m)		
地震計	恵山ドーム北	41 48.8	141 09.8	379	0	2005年7月